

令和6年度 長野県諏訪清陵高等学校 学校評価表

48清陵

<p>学校教育目標</p>	<p>～時代を逞しく切り拓く創造性豊かな人間を育てていく～</p> <p>① 個性・能力の伸長 ② 自分で考え、積極的に発信できる高いコミュニケーション力 ③ 孟子「自反」の気概を備え、社会で活躍できるリーダーの育成 ④ SSHを軸に据え、論理的で科学的な思考力を育むことにより探究力を育成</p>	<p>今年度 重点目標</p>	<p>◎ 生徒が課題発見力を育みながら、主体的・対話的で深い学びを実践する授業の追求 ○ 生徒のおおの進路実現を見据えた学習指導、キャリア教育・課題研究指導の充実 ○ 生徒の相談支援体制の充実拡大と、いじめや体罰、不登校、学校不適応の未然防止 ○ 地域に開かれた学校づくりと社会に開かれた教育課程の実現</p>
---------------	---	---------------------	---

重点目標	取組	評価の観点	担当分掌	達成度 (5段階)	意見(本年度の取組・次年度への課題等) ○成果、◆課題、■改善策・向上策
<p>生徒が課題発見力を育みながら、主体的・対話的で深い学びを実践する授業の追求</p>	<p>①授業やテストにおいて、情報分析から課題発見を促すような発問や、答えが一つではない発問を多くし、考察、発表、討論するような機会を多く設ける。 ②学校設定科目「課題研究基礎」、「課題研究」、SSH諸活動および教科の授業全般において、生徒が自ら課題を発見し探究する機会となるような環境を整える。 ③自ら考えて課題を見つけ出し改善していくクラブ活動・学友会活動を実現させるために顧問が機会を捉えて助言や指導をする。</p>	<p>①授業アンケートにおいて、評価項目「2興味関心の深まり」および「3自ら学ぶ力の向上」の好意的評価が得られたか。 ②「課題研究」において、実験やフィールドワークで得たデータを数学的、理学的視点に基づく考察を行う研究を増やし、ポスター発表・論文などを質的に向上させることができたか。 ③学友会活動、クラブ活動に自ら積極的に係ることで、生徒が自身の満足度を高めることができたか。</p>	<p>進路指導  SSH  学友会</p>	<p>4  4  4</p>	<p>○授業アンケート「興味関心の深まり」に対し83.7%（昨年度82.7%）が「深まった・大体当てはまる」と回答。また「自ら学ぶ力」に関しては85.6%（昨年度84.7%）が「深まった・大体当てはまる」と回答。昨年以上の成果が認められた。■今後も、深い思考をもとめる問いの研究など教員間で情報交換・情報共有を持つ機会を更に企画したい。 ○3月の特編授業で1年間の方針を示し、グループ・テーマ決めを開始したことにより研究開始が早まり、実験やフィールドワークの時間を確保できたことで研究の質が向上した。◆データの収集が十分に行えず考察が飛躍する研究もあった。■職員研修も含めて、年度内に複数回の研修、ガイダンスを実施していく。 ○昇降ロモニター、クラスルームを活用して、各委員会の活動内容や部活動の要するを校内で共有し、活動意欲の向上につなげることを心掛けているが、会則、内規について見直しを要するものが多くあることがわかった。生徒の自治活動の面は尊重しつつ、学校運営にかかわるものもあるため、職員と生徒が連携した整理・精査が必要である。■情報発信、情報共有の手段及びルールを整え、各部署や校外との連携を強化していく。</p>
<p>生徒のおおの進路実現を見据えた学習指導、キャリア教育・課題研究指導の充実</p>	<p>①社会的・職業的に自立した人間の育成を目指し、合同HR、講演会等により、進路意識の向上を図る。また、進路研究への支援を行い、キャリア教育を推進する。 ②実力テスト、定期考査、校内模試、校外模試の分析をもとに、毎日の家庭学習、補習、テスト前後の学習の質と量の充実を図る。 ③学力の3要素を育成するとともに、生徒の進路実現につながる探究的取組の実践を行う。</p>	<p>①講演会等実施後のアンケートにおいて、好意的評価が得られたか。 ②各種テスト後の分析結果に基づき、各生徒の弱点を補うような指導をすることができたか。 ③学力向上につながるプログラムの中で、より多くの大学、企業等と連携することができたか。</p>	<p>進路指導  進路指導  SSH</p>	<p>5  4  4</p>	<p>○1年職業観の育成・2年学問についての理解を深めるといった目的の下、講演会が実施できた。対面での講演を増やし、直接意見交換ができる場面を用意した。昨年以上の95%以上の生徒が「進路・キャリア意識の向上」について「向上した」と回答。成果が得られた。 ○学年会や職員会を通じ昨年以上に詳細に現状分析に努めた。進路通信や個別の面談を通じ学力向上に努めた。◆成績向上の要因は各生徒によって様々であり、より細かな指導・アドバイスの必要性を感じる。さらなる設問分析を行い指導向上につなげたい。またクラブ活動等との両立に課題あり。 ○県内外の大学や企業と連携することで、対面講座や研修を実施できた。また、他校生徒や附属中学生も参加可能にするなど新たな形・内容の研修講座の実施ができた。◆希望者が少なく参加者の確保が困難な講座もあった■SSH生徒スタッフの活動を活性化させ、生徒告知・参加者の確保を行う。</p>
<p>生徒の相談支援体制の充実拡大と、いじめや体罰、不登校、学校不適応の未然防止</p>	<p>①生徒の立場に立って、心身の状態を深く洞察しつつ、成長を支援するための指導を行う。 ②社会的マナーの向上や学校生活における全般的なモラルの向上を図る。 ③いじめを絶対に許さない校風を維持する。</p>	<p>①生徒の相談に十分に対応することで、不登校生徒数を減少させることができたか。 ②問題行動件数、自転車事故件数を減少させることができたか。 ③いじめ防止のために、機会を捉えた指導をすることで、いじめ件数をゼロとすることができたか。 ④いじめの早期発見につながる相談体制を十分に機能させることで、いじめの早期解決を図ることができたか。</p>	<p>生徒指導  生徒指導  生徒指導  生徒指導</p>	<p>4  4  4  4</p>	<p>○カウンセラーとの相談体制は確立しており、担任や保護者からの依頼→相談のプロセスはスムーズに活用できている。早期の相談を心掛けているが、個々の相談も長期にわたること、その人数も増加しており、カウンセラーの割り当て時間は十分とは言えない。医療機関やSSWへの相談移行や協力体制も構築できており、来年度以降もチームでの支援体制を継続していく。 ○問題行動と呼べるような大きな出来事はなかったが、小さなトラブルを学年と協力しながら支援という形で解決することはできた。また、トラブルを未然に防ぐ注意喚起は定期的におこなった。○自転車事故は昨年度と同様、大事故はないが、継続して事故ゼロを目指して自転車ルールの確認を中心に指導継続をする。 ○アンケート結果をもとに係・学年連携した対応体制をとることができた。いじめでなくてもそのまませず、協力して問題解決に乗り出すことで、日常のトラブル防止につながる支援をすることができると考え、係としてもしっかり継続して関わっていく。 ○年2回のアンケートを中心に、実態把握を進めることができた。アンケートで出された結果をもとに、聞き取りや調査を行ったが、いじめと呼べるような案件は現れなかった。引き続き担任の面談も含め、実態把握を丁寧におこなっていく。</p>
<p>地域に開かれた学校づくりと社会に開かれた教育課程の実現</p>	<p>①教育活動を直接見る機会を設け、学校への理解を深める機会とする。 ②広報物を活用し、清陵高校・附属中学校の情報を発信していく。 ③外部機関と連携し教育活動の範囲を広げていく。</p>	<p>①公開授業、学校説明会、保護者懇談会に多くの方の参加に参加してもらえたか。また、これらの事業を通し学校への意見要望を吸い上げることができたか。 ②ホームページの更新頻度を上げること、各種広報物「清水ヶ丘便り」「学校案内」「SSHだより」の発行で、中学生やその保護者に清陵高校の取組を伝え、志願者数を増やすことができたか。 ③SSH、進路指導、学友会、部活動に加え授業等での外部機関との連携した活動を推進できたか。</p>	<p>教務  教務  教務 SSH 進路指導 学友会</p>	<p>4  4  4</p>	<p>○5/18(土)授業公開：中高合計721名来校。・7/16(火)～18(木)学校説明会・授業公開：30校から412名(生徒314名、保護者・引率98名)来校。・10/5(土)課題研究中間発表会：他高校生35名、他高校職員16名、他中学職員7名、保護者40名。・7/22(月)～26(金)保護者懇談会(全学年で実施)。・12/16(月)～20(金)保護者懇談会(1,2年全クラスで実施)。・1/24(金)～26(日)保護者懇談会(3年生希望者、共通テスト自己採点を元に出願指導)。・2/1(土)課題研究発表会：諏訪文化センター、諏訪市公民館で開催、保護者、一般89名来場。 ○行事毎に来校者アンケートを実施。管理職が中学校訪問を行ない清陵への意見を聞くとともに広報活動を行なった。意見については情報共有している。授業・生徒の様子、学習環境については、概ね高評価である。■7月学校説明会は申し込みを中学側の意向を踏まえ、中学校経由ではなくGoogleFormを使って中学生個々での申込に変更した。大きな問題もなかったことから継続の方針。 ○昨年度HPを作り替えた。更新頻度も上がり情報提供にプラスになっている。暫定的なデザインなので、学校色を出すよう修正が必要。◆「学校案内」は、より見やすく、より情報が伝わるよう画面構成に手を加えた。中学生へのアピールとしては紙媒体は重要であると考え継続していくが、将来的には媒体の見直しも必要。■電子媒体での発行に移行した「清水ヶ丘便り」を発行しなかった。HP、学校案内との棲み分けは課題■メール配信システムを使い、翌週の予定を配信。ちょっとした学校の様子を加えて配信しているが、保護者から好評を得ている。欠席連絡に対応できるようシステムの変更を行う予定。 SSH、進路指導では外部機関と連携する場面が増え、探究活動の深化、進路への意識付け等に繋がっている。生徒にも好評である。一方で日常の授業の中で行うことは進んでいない。導入に向けた研究・検討が必要である。 学友会では、諏訪県内の高校や中学校との連携や情報発信について会員から様々な提案を得ることができた。いずれも来年度に向けての準備段階となるため、次年度に引き継いでいきたい。</p>